一般演題6-1
高気圧酸素治療による気圧性滲出性中耳炎のCT/MRIでの評価

三谷昌光　八木博司
特定医療法人　八木厚生会　八木病院

【目的】 高気圧酸素治療（HBO）に際し最も注意すべき合併症として気圧性の滲出性中耳炎がある。滲出性中耳炎の発生頻度につきCT/MRIにて検討した。

【材料と方法】 当院でHBOを行った症例で，HBO開始後に頭部CTまたはMRI検査がなされているものを対象とした。H23.6.30より以前にHBOを開始した症例をさかのぼって100例を抽出した。HBOは多人数用の第2種高気圧酸素治療装置KH0301（川崎エンジニアリング社製）を使用した。治療圧は2，2.5，2.8 ATAのいずれかで，治療時間は減圧症を除いて60分とした。減圧症では各症例に適した治療テーブルを用いた。CT装置はH22.3月までは，X vision/GX（東芝製）を，それ以降はマルチスライスCT 装置 Aquilion-64列システム（東芝製)を使用した。MRI装置は0.5T Flexart MRT-50GP（東芝製）を使用した。

【結果及び考察】 頭部CT検査では通常撮像より骨条件撮像の方が滲出性中耳炎の診断に有用だった。頭部MRI検査では，T_1強調画像（T_1），T_2強調画像（T_2）及びFLAIR（Fluid attenuated inversion recovery）画像を通常撮影としたが，FLAIR，T_2が滲出性中耳炎の診断に有用だった。滲出性中耳炎の検出には，MRI検査の方がCT検査よりも優れていた。頭部CT/MRIがなされていた100例は，この間（H21.9.31～H23.6.30）のHBO症例314例の31.8％に当たる。100例の内訳は，CT/MRIを撮る機会の多い中枢神経系疾患が多く，意識障害のある患者が多いことになった（表1.）。CT検査では，20例中14例（70%）に，MRI検査では80例中62例（77.5%）に滲出性中耳炎が見られた（表2.）。わずか1回のHBO後に出現しているものもあった。低酸素脳症，頭部外傷，CO中毒等の意識障害のある例では更に高頻度であった。しかし，高度滲出性中耳炎がみられた例でもHBO終了後には徐々に自然治癒した。

【結論】 HBOによる滲出性中耳炎はCT/MRI画像上は高頻度に発生し，わずか1回のHBOによっても出現し得る。意識障害のある患者では必発と考えて対処すべきである。

表1．頭部C T/MRIを施行した100例の内訳

CO中毒	38	例
低酸素脳症	11	
頭部外傷	11	
突発性難聴	8	
末梢循環障害	8	
脳血管障害	7	
イレウス	5	
難治性潰瘍	4	
減圧症	3	
その他	5	
計	100	

表2．滲出性中耳炎の頻度

	症例数	中耳炎有	%
CT	20	14	70%
MRI	80	62	77.5%
計	100	76	76%